

令和7年度 小学校出前講座

「未来の大牟田まちづくり ～空き家にしたくない大切なわが家～」



1. 大牟田市の空き家の現状と対策

空き家は今、全国的にも社会問題化しています。

とりわけ大牟田市の空き家率は21.3%と、全国平均13.8%に比べ非常に高くなってしまっています。(令和5年統計値)

主な原因は、人口減少や高齢者のみの世帯の増加です。

空き家は、持ち主やその子どもたちがきちんと責任をもって管理する必要があります。リフォームして使い続けられる家もあり、洋風になつたりカフェになった建物の写真を見てもらいました。



2. 羽山台空家対策プロジェクトについて

平成29年から活動を開始し、羽山台地域の空き家の早期解決にむけたアドバイスや、見回り代行「チョロットサービス」を行っています。家族みんなで家のことを話し合える「住まいのノート」もあります。

わからないこと等は、親や先生に尋ねてたくさん学んでください！とメッセージをもらいました。

3. わたしたちの羽山台

まずは羽山台小学校周辺の航空写真を見て、「まち」を作っているのは何だろう？を考えました。

「建物がたくさん」「自分の家が写ってる」と元気な意見が飛び出しました。ひしめき合っている建物は、誰かが暮らしている家であり、誰かが生活していた家たちです。「まち」は、皆で形成しています。

お正月におじいちゃんやおばあちゃんの家に行った人は？と聞くと、「元気だった」「いつもは二人暮らし」「うちは一人暮らし」とたくさんの手が上がりました。

いつか、もっと時間が経ったらその家はどうなるかな？という質問には「空き家になる」「余って社会問題になる」「自分のものになる」など、しっかり受け答えをしてくれました。

空き家が増えたらどうなる？の質問に対しても、「危ない」などの答えだけでなく「大牟田がなくなって、吸収される」や「財政破綻する」など、大人顔負けの意見まで！



◎宿題「わたしたちの羽山台」

1日目で学んだことを、家族と話しながら答えてもらう宿題も出了しました。
自分が住んでいる家は持ち家？それとも賃貸住宅？
住んでいる家の良いところは？不便なところは？
…など。あわせて「空き家にしないために」をテーマに標語も考えてきてもらいました！

(力作の標語たちは、最後のページに♪ 羽山台小学校や羽山台コミュニティセンター・三池地区公民館にもポスター掲示しますので、ぜひ、ご覧になってくださいね)

4. グループディスカッション

2日目は班に分かれてのグループディスカッションです。
模造紙の中央には、自分の家のまわりの地図も作ってもらいます。
3つの質問がありましたが、付箋が足りなくなるほど！とても活発に意見が飛び交いました。

①大牟田や地域の好きなところ

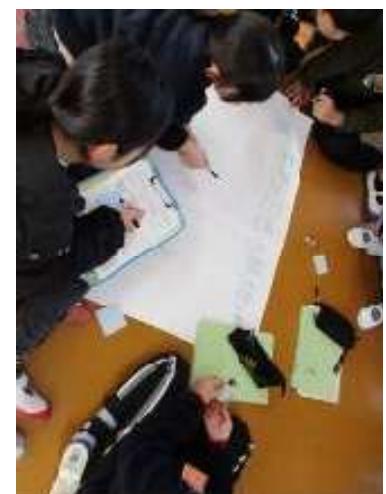
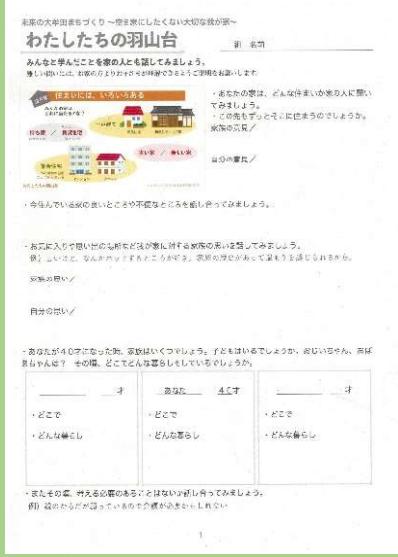
- ・人が優しいところ
- ・地元の人が助けてくれる、あいさつしてくれる
- ・昔の伝統がある
- ・公園が多い
- ・草木まんじゅう、みかん、のりなどがおいしい
- ・体をはった祭りが多い
- ・昔は日本の経済を支えていた

②隣が空き家になったらどうする？

- ・町の見栄えが悪くなる
- ・もったいない
- ・ハチの巣ができるかもしれない
- ・解体してほしい
- ・ぶきみでこわい
- ・ひっこしたい
- ・困る
- ・災害のときに不安
- ・瓦がおちてくるのがこわい
- ・悲しいきもちになる

③未来の羽山台

- ・空き家が一つでもへらせるきれいな町
- ・空き家がなくなり安心できる町
- ・まずは大牟田が残ってほしい
- ・高齢者が元気な町
- ・木材を再利用したり、ものを大事にしていく



◎ 日本の家について

ディスカッションの合間には、日本の家屋についての学びを深めてもらいました。

「家の寿命」

アメリカ103年、フランス85年などに比べると、日本はたったの30年といわれています！

「家を解く」

日本の伝統的な木造家屋は、主に「木組み」でクギなどを使わずに造られています。そのためバラバラに「解く」ことができ、移築をしたり、次の新築で再利用も出来ます。自然素材だけなので、使えなくなったものは土に還っていきます。

5. 発表

模造紙の完成後はディスカッションで出た意見や、宿題の標語をみんなの前で発表してもらいました！教室中で元気に手がるので、ゲストティーチャーの山城先生がてる班を迷ってしまうくらいです。

「(空き家があった場所は)広い空き地にして、人がたくさん来るような施設を作つたらいいと思います」という意見の中には、ディズニーランドやUSJ、動物園や水族館がある小学校がいい！と夢いっぱい。

ゲストティーチャーから教わったことをしっかり吸収してくれて「30年以上建っている家にしたい」という意見も。

発表してくれた標語のなかには「終活」や「リノベーション」といった専門用語まで使われていて、これからの大牟田・羽山台地域の未来は明るいなと、たいへん頼もしく思えました。

空き家が多いことに対し、「災害が心配」という意見も多くありました。

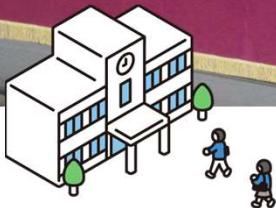
ゲストティーチャーの平良先生から「皆さんが心配の通り、災害の時には空き家で延焼が広がったり、実際に影響を及ぼしてしまうこともあります。これからも様々なことを勉強してください」とコメントがありました。

校長先生からは「今はまだ他人事のように思えるだろうけど、(家に住む以上は)いつか必ず自分事になる問題です」と、少しだけ実体験も話してもらいました。

ぜひ、ご家庭の中でも「家のこと」を話してみてください。

羽山台小学校
5年生の皆さん♪
ありがとうございました！





空き家0で 安心な町に



羽山台小学校 5年生の 空き家標語です♪



もとの家 空き家になつたら 解体だ

うけつだりする

これからも空家にせずに住んでいける

健康生活

その家を
思いと共に
受け継ぐう

絶活は持ち主たちの責任だ

支那の歴史

空き家にならないため、
家族に一人が家にすむ

大切に 家や空き家を 管理しよう

家族がつなぐ 住まいのバトン



リフォームで みんな集合 かんぱいだ

卷之三

三九郎の感想

考え方 家の未来

